

## 自 己 評 価 表

学 校 名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 38

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 —思いやる心 自律の心 挑戦する心— 『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成 (ボランティア活動の推進)
------	---	--------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 校 経 営	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの公開により、教育活動の情報を発信する。	B	達成状況は、昨年度とほぼ同じである。連絡袋を使った各種「たより」の持ち帰りも定着したと思われる。 今後も、教育活動の情報発信に努めたい。	目標とは異なるが、各種「たより」配布を毎月1日と限定することで担任への負担が大きくなるため、月末も含めた範囲で配布しることにより、生徒が「たより」を読む時間の確保に努めたい。また、教室後方へカラー版を掲示することにより、生徒が読む機会を設ける。
	保護者の意見反映	P T A総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	B	保護者懇談会では数値目標を十分に達成できたが、P T A総会が昨年度よりさらに下降した。また、評価も昨年度と同じ値であった。	保護者が聞きたい・知りたい内容を精選し「講演会を設ける」などの計画が実現できるよう検討する。 また、P T A総会出席していただく工夫をP T A理事会で検討していただく。
	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数3冊を目指す。	A	一人当たりの図書貸出し冊数は、昨年より大幅に増えた。一日当たりの利用者数も、24年度の目標値である30人を越えることができた。 生徒から購入希望のあった本や本校生徒に人気のある作家の本は、予算内ではほぼすべて購入できた。読書啓発活動については、教職員・生徒共に評価は昨年より微増した。	引き続き生徒の希望する図書の購入に努め、図書や机、パソコン等の配置を工夫し、利用しやすい環境づくりを進めていく。 図書館を利用する生徒の多様なニーズに応えられるよう、整備を進めていきたい。

学 習 指 導	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。 相互授業研修期間中、一人年間5回以上の授業を参観し、授業力向上に努める。	B	生徒による授業評価の改善点や教員の相互授業研修に基づいた課題を教科会を中心に検討して、授業改善に取り組むことができた。	授業評価のアンケートの取り方を工夫し、生徒が何をどのように必要としているのかを把握できるようなものにする。 相互授業研修を通して、更に授業の質の向上に努める。
	基礎学力の向上	定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。	B	国語、数学、英語のエスタブリッシュメントテストを年間通して行い、家庭学習の定着を図ることができた。	実施している国語、数学、英語のエスタブリッシュメントテストや日々の授業を工夫して学習指導を行い、家庭学習の定着を図るとともに、基礎学力の向上に努めたい。
工 業 教 育	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。 ジュニアマイスターの認定（ゴールド・シルバー15人以上）を目指す。	B	資格・検定合格数は5.6個と目標値には若干届いていない。 ジュニアマイスターの認定者は、ゴールド10名、シルバー17名であり、十分に目標を達成できた。	基礎的、基本的な検定を取得させ基礎基本の定着を図り、さらに難易度の高い資格にも挑戦できるよう指導する。 またアンケートの結果からは、地域住民の方への社会人を活用した事業が十分に伝わっていないので、引き続きPRしていく。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。 地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。 活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	ものづくりコンテストでは、測量部門で県大会、四国大会で優勝・準優勝し、全国大会で準優勝、電気部門で愛媛県大会、四国大会で優勝し、全国大会に出場と活躍した。WROでは、中四国大会で優勝し、全国大会第7位、ロボット競技大会でも、全国大会に出場するなど活躍した。 また、課題研究発表会、県工業科生徒研究発表会で発表するなど各種活動に取り組んだ。	本年度も生徒の活躍が顕著であった。特にものづくりコンテストでの活躍が大きく、来年度も引き続き各取組を充実させていきたい。

特別 活動	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えると共に意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	B	目標達成には至らなかったが、昨年度に比べ増加した。特に、インターンシップでお世話になった保育園にボランティアに行く生徒がおり、自主的な取組が見られた。	ボランティアの申込み方法を変更し、分かりやすくしたことが増加につながったと感じている。今後は、ボランティアの内容についてもよく分かる掲示物を作成したい。また、高齢者との交流についての新しいボランティア活動を増やしていきたい。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を10回以上開催し、積極的に参加しなくなるような学校行事にする。	B	1学期は委員会を4回、2学期は6回、3学期は2回実施している。生徒会の大きな行事はバラ展から始まり、体育祭、工業祭、各学期のクラスマッチ等で、充実した行事を実施することができた。他の学校行事においても熱心に取り組むことができた。	各行事内容の再検討をし、計画的に委員会を実施して早めに取り掛かれるようにする。高校時代の楽しい思い出として残るような学校行事を目指したい。
	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	B	3月現在で、1年生は100%、2年生は97%、3年生は100%で、全体では99%である。3月現在で1年生が5名、2年生が5名部変更している。	兼部しているのは、1年生は7名、2年生は3名、3年生は9名の計19名である。生徒数が減少しているため、他の部活に興味があり可能ならば積極的に兼部を推進していきたい。
生徒 指導	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。頭服指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを身に付けさせる。	B	2月末の遅刻数は延べで1年8回（前年比-8）、2年13回（同-12）、3年16回（同-13）で、個人では4回1人、2回3人であった。昨年度同時期と比較して大きく減少した。頭髪・服装については、校内での大きな乱れは見られない。	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底を行い、自覚を促していきたい。また、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣が身につくよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通し生徒の規範意識を育成する。校門指導、教科指導、部活動の中で挨拶を励行させる。	C	教職員の評価が昨年比-5%となっているが、校内での挨拶は良好と考える。校門指導・教科での指導の成果が表れていると考える。校外での挨拶や交通ルール・マナーについては、地域住民の評価が低いことから、十分な成果は現れていない。	非行防止教室や全校集会等で繰り返し指導を行い、規範意識を高めていきたい。また、校門指導・登校指導で交通安全指導の徹底を行いたい。挨拶については、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を継続していきたい。

人 権	人権啓発の推進	「人権だより」やその他の啓発資料を通して、人権尊重の意識を高める。 「人権だより」を年10回発行する。	C	人権・同和教育ホームルーム活動に関しては、担任の先生のご尽力により良い結果が得られた。しかし人権だより、新聞記事紹介による啓発はもっと達成率を上げる必要がある。人権だよりは主に生徒の活動を紹介するという内容だった。生徒には物足りないかもしれない。また、新聞記事の紹介は、昨年度よりも回数が減ってしまった。	人権・同和教育ホームルーム活動の資料を精選し、授業者が利用しやすく焦点を絞りやすいものを提供する必要がある。また、人権だよりは、生徒も興味を引くような内容にしていくために、内容を精選する。新聞記事紹介は、回数を増やし、一人でも多くの生徒が興味を持てる内容を増やしていきたい。
	教育	いじめをなくする取組	いじめられる生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施する。	B	いじめに関するアンケートの結果は、2回とも昨年以上に良好であった。いじめられたことがあると答えた生徒の数は、第2回の調査では1%（総数で3名）であり、学校生活が十分に落ち着いていることをうかがわせるものであった。また、学年進行で数が減少していることから生徒の着実な成長を読み取ることができる。内部評価結果は昨年度と同程度の数値であった。
進 路	就職指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	B	景気悪化の影響が大きく、就職試験の1次内定率は76%と目標を下回った。2次求人がほとんどない状態ではあったが、就職希望者の生徒は全員が内定した。 職場見学、インターンシップ、講話等の行事も予定通り実施され、職業観、勤労観の育成を図る事ができた。	企業見学、インターンシップ、体験発表等を通して職業観、勤労観の醸成を更に図る。また、来年度の就職は、今年度並の厳しさが予想されるため、生徒に対して早期に意識付けを行うとともに、模擬試験、適性検査、夏期補習等の充実を図り、1次内定率の向上を目指す。
	指 導	進学指導の充実	大学・専門学校などへの第1希望合格率90%以上を目指す。	B	模擬試験、進学説明会、夏期進学補習、放課後補習などを実施し、進学に対する意識付けができた。進学を希望している生徒全員が合格した。

学 校 保 健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的な生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	今年度も引き続きショートホームルームで健康観察を実施し、感染症の予防対策の徹底を図るとともに、基本的な生活習慣の確立を目指した健康管理や衛生管理について、情報発信を行った。 その結果、感染症での出席停止者が減少した。生徒たちは、自らの健康に対する意識の向上とともに、集団の健康に関する理解も深まり、生徒自身が主体的に考え、行動することにつながった。	健康観察を通じて、担任や家庭との連携を深めることができた。引き続き、基本的な生活習慣の確立を目指し、生徒自らが考えて行動できるように、保健だよりや発信文書の内容を検討していきたい。
	学 校 安 全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	本年度、学校防災教育の研究指定のため、昨年度までと避難訓練実施形態が変わり、避難に対する意識は向上したと思われる。
学 校 行 政	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。	B	校舎・教室の美化に心掛け整理整頓ができた。	引き続き校内美化の意識を持ち、より良い環境になるよう目指していきたい。
	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。	B	教職員で校内研修を行い、適切な対応ができた。	引き続き丁寧な対応を心掛けたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。